

財務計算テキストチェックゼミ 第2回

テキスト①第7～12章

外貨換算会計、金融商品、ヘッジ会計、引当金、社債

資格の学校
TAC

オンライン開催

2026.6.11

ゼミ参加における注意点（再掲）

- ◎ 問題演習（アウトプット演習）は必須です！こちらは本ゼミでは行えないので、必ず自身で行ってください！
- ◎ パネリスト参加がおすすめです！緊張感の中でテキストの内容を思い出す練習ができます！緊張しやすい方には特におすすめします！
- ◎ 必ず予習をする！！予習不十分の状態ではパネリスト参加はやめてください！参加型のゼミなので、他の人の迷惑になります・・・
- ◎ 必ず復習をする！！ただし、必ず「テキスト」に戻るようにしてください！使用したレジュメは配信しますが、あくまでも補助教材です。丸暗記×
- ◎ 本ゼミはあくまでも補助教材なので、通常講義やトレーニング演習を優先すること（入門生よりも再受験者推奨！！）

ゼミ運営のルール（再掲）

- ① 12月に必ず合格しましょう！！
- ② 当てられていないときも、当てられたつもりで、答えを考えましょう。
- ③ 質問は最後にまとめて受けます。
わからないことはなるべくこの時間に解消しましょう。
- ④ ゼミとは別で自分自身で計算演習は進めましょう。
- ⑤ 参加者が多いと全員当てられない可能性もあります。
- ⑥ 悪口などは絶対に禁止でお願いします！！

ゼミ運営のルール（再掲）

- ⑦ 質問中はテキストを見てはいけません。全部終わってからテキストを開いてください。
- ⑧ わからなかったことを後で確認できるように何かメモする紙を用意してください。
なお、スライドは配信するので、メモを取り過ぎてゼミを聞いていないことのないようにしましょう。
- ⑨ 電卓を用意してください。
- ⑩ 勉強仲間がいる人は友達同士でもゼミをやってみましょう。
- ⑪ 他の科目でも、テキストを見ずに想起する勉強法は活用してください。
- ⑫ SNSやっている方は「#TACテキチエ」で感想を投稿してください！

テキスト①第7章 外貨換算会計（その1）

Q

TAC

期中に計上し、期末に保有する外貨建の
「前渡金」と「売掛金」の
決算時の会計処理方法を教えてください。

A 前渡金：HR換算
売掛金：CR換算

前渡金

→非貨幣項目

(支払い済みでレートの変動は気にならない。)

売掛金

→貨幣項目

(将来受け取るのでレートの変動が気になる。)

※TX①〔例題7-4〕

Q

TAC

外貨建有価証券の
保有目的別の換算方法と
換算差額の処理（科目）を
教えてください。

| 項 目 | 換 算 方 法 | 換算差額の処理 |
|-------------|----------------|------------|
| 売買目的有価証券 | $CC \times CR$ | 有価証券評価損益 |
| 満期保有目的の債券 | $HC \times CR$ | 為替差損益 |
| 子会社及び関連会社株式 | $HC \times HR$ | — |
| その他有価証券 | $CC \times CR$ | 評価差額は純資産の部 |

(注)償却原価の有価証券利息はAR換算する。

※TX①〔例題7-10〕～〔例題7-13〕

Q

TAC

外貨建有価証券の減損は
どのように行われるか説明してください。

A

外貨建の時価をC R換算する。

外貨ベースで減損の判断をする。

※TX①〔例題7-14〕

Q

TAC

売買目的やその他の有価証券
（債券は原則処理）の換算差額を
為替差損益としない理由を
説明してください。

A

売買目的やその他有価証券は

「金融商品基準」において

時価評価されることとされており、

円貨額による時価評価差額を求める過程
としての換算であるため。

満期保有目的は金銭債権（貨幣項目）との
類似性を考慮して、CR換算している。

※理論T X第22章Ⅲ4.(1)③

Q

TAC

市場価格のない外貨建有価証券の
決算時の会計処理を説明してください。

A

- ・株式の場合

取得原価を決算時の為替相場（CR）により換算し、その評価差額は、原則として「その他有価証券評価差額金」として計上する。

- ・債券の場合

償却原価を決算時の為替相場（CR）により換算し、その評価差額は、原則として「その他有価証券評価差額金」として計上する。

※TX①第7章V.4.(2)

Q

取引発生後に行う為替予約について
振当処理を行った場合、

- ①金銭債権債務及び
- ②為替差損益の金額を説明してください。

A

①金銭債権債務

予約日の先物為替相場で換算される。（予約日の先物相場を「振当て」し、キャッシュフローを固定する。）

②為替差損益

直々差額（取引日と予約日の直物為替相場の差額）は予約時に為替差損益とし、直先差額（予約日の直物為替相場と先物為替相場の差額）のうち、当期に帰属する金額を為替差損益とする。

Q

TAC

取引発生時以前に行う為替予約について、
振当処理を行った場合、
為替差損益の金額を説明してください。

- ・原則

直先差額(予約日の直物為替相場と先物為替相場の差額)のうち、当期に帰属する金額を為替差損益とする。

- ・容認

(非資金取引≠取引発生時に資金の増減を伴わない取引)
為替差損益が計上されない。

※TX①〔例題7-7〕

Q

振当処理の会計処理に発生した
直先差額のうち、
次期以降に帰属する金額の勘定科目と
その区分を答えてください。

決算日の翌日から起算して決済日が、

① 1年以内 → 「前払費用（流動資産）」 「前受収益（流動負債）」

② 1年を超える → 全額「長期前払費用（固定資産「投資その他の資産」）」

「長期前受収益（固定負債）」

経過勘定では「前払費用」のみを長短分類するが、上記では「長期前受収益」という勘定が登場している。これは、為替予約の直先差額を各期に配分するために繰延処理を行う必要があるが、適当な勘定がないため、「長期前払費用」及び「長期前受収益」という科目名を用いているだけであり、当該勘定は純粋な経過勘定ではない。

※TX①〔例題7-5〕

テキスト①第9・10章
金融商品、ヘッジ会計

Q

TAC

デリバティブ取引により生じる
債権及び債務について、
B/S の金額及び評価差額の
原則的な処理方法を説明してください。

A

TAC

B/S 価額…時価

評価差額…当期の損益

※T X①第9章3.2.(2),

〔例題9-1〕～〔例題9-3〕

理論T X第17章IX.

Q

TAC

先物取引とは何か説明してください。
なお、説明の中で先物価格についても
あわせて説明してください。

A

先物取引とは、売手と買手が将来の一定の時期に一定のモノを現在の時点で約束した価格（先物価格）で受け渡すことを約束する取引である。

→要は、「将来」??円（先物価格）で
売るor買うことを、「今」約束する取引

※TX①〔例題9-1〕, 〔例題9-2〕

Q

TAC

×3年2月1日にA商品先物を
1,100円／個で1枚（1,000個）買い建てた。
決算日（×3年3月31日）に
A商品先物価格が1,130円／個であった。
決算日の仕訳を答えてください。

| | | | |
|----------|--------|------------|--------|
| (借) 先物取引 | 30,000 | (貸) 先物取引損益 | 30,000 |
|----------|--------|------------|--------|

(損か益かを考えるイメージ、①or②)

①1,100円で買う (予約=固定)

1,130円で売る差額30円「益」出てる!

②自分は1,100円で買える (予約=固定)

周りは1,130円なので自分は30円安く買える

※TX① [例題9-1] [例題9-2]

Q

- × 3年2月1日にA商品先物を1,100円／個で1枚（1,000個）買い建てた。
- × 3年3月31日（決算日）にA商品先物価格が1,130円／個であった。
- × 3年5月12日（決済日）に1,140円／個で反対売買を行った。
- × 3年度損益計算書に計上される先物取引損益の金額を教えてください。

A

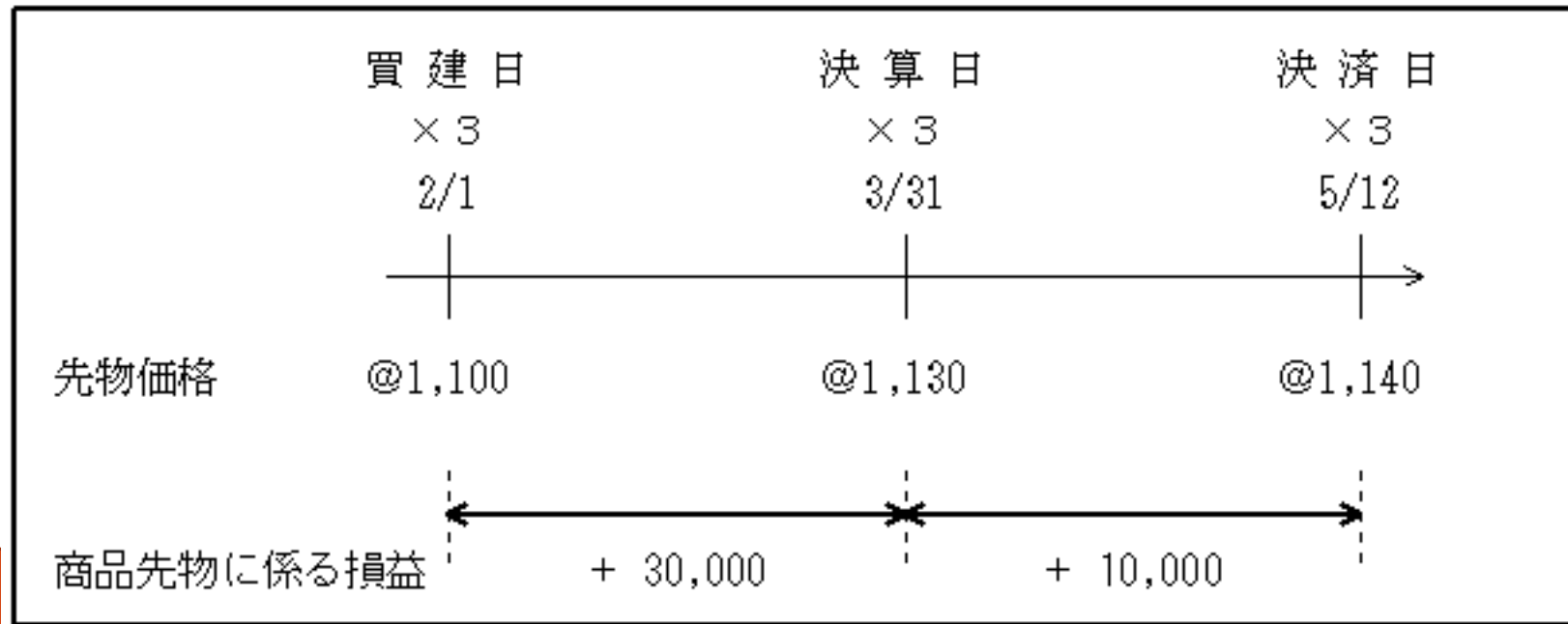
+ 10,000円

$(1,140円 - 1,130円) \times 1,000個$

※損益計算書には期中の変動分が損益として計上される。

切放でも洗替でも同じ結果となる。

※TX①〔例題9-1〕〔例題9-2〕



Q

通貨先物の売予約を1,000ドル行った。

先物レートは以下のとおりである。

× 1年3月1日（予約日）： 124円／ドル

× 1年3月31日（決算日）： 123円／ドル

決算日の仕訳を答えてください。

A

TAC

| | | | |
|----------|-------|-----------|-------|
| (借) 為替予約 | 1,000 | (貸) 為替差損益 | 1,000 |
|----------|-------|-----------|-------|

(損か益かを考えるイメージ, ①or②)

①124円で売る (予約=固定) 123円で買う。

差額1円「益」出てる!

②自分は124円で売れる (予約=固定)

周りは123円なので自分は1円高く売れる。

※TX① [例題9-1] [例題9-2]

Q

TAC

オプション取引とは何か説明してください。
なお、説明の中でオプション料についても併せて説明してください（いつ支払うのかなど）。

A

オプションとは、一定の期日あるいは一定の期間内に一定の価格で特定の商品を買う又は売る権利をいう。

オプション料は買手があらかじめ売手に支払うもの。

Q

TAC

コール・オプションとは何か説明してください。

A

TAC

買う権利

(プット・オプションが売る権利)

Q

TAC

オプション取引（買手側）について、
決算時に行う会計処理を教えてください。

A

オプションを時価評価する。
なお、オプション価値の差額を、
当期の損益として処理する。

注：先物相場の差額としない！

Memo：オプション価格には内在価値及び
時間価値が含まれる。

※TX①〔例題9－3〕

Q

1. X3年7月1日に、T社株式のプット・オプションを1千株分購入し、オプション料として総額20千円を支払った。なお、権利行使期日はX4年3月31日、権利行使価格は1株当たり1,000円である。

2. X4年2月1日に、B社株式の時価が1株当たり800円であったため、権利行使をした。

上記の資料より、X3年度（X3年4月1日～X4年3月31日）のオプション損益の金額を教えてください。なお、損失の場合は△を付すこと。

A

180千円

| | | | |
|----------|---------|-----------|---------|
| (借) 現金預金 | 200(*1) | (貸) オプション | 20 |
| | | オプション損益 | 180(*2) |

(*1) $(1,000円 - 800円) \times 1千株 = 200$

(*2) $200(*1) - 20 = 180$

※TX①〔例題9-3〕

Q

以下の文章の誤りを指摘してください。

ヘッジ取引とは、ヘッジ手段である資産又は負債の価格変動、金利変動及び為替変動といった相場変動等による損失の可能性を減殺することを目的として、デリバティブ取引をヘッジ対象として用いる取引をいう。

正しい文章…

ヘッジ取引とは、ヘッジ対象である資産又は負債の価格変動、金利変動及び為替変動といった相場変動等による損失の可能性を減殺することを目的として、デリバティブ取引をヘッジ手段として用いる取引をいう。

※TX①〔例題10-1〕,

理論TX第17章X.

Q

TAC

ヘッジ会計とは何か説明してください。

ヘッジ会計とは、
ヘッジ取引のうち一定の要件を充たすものについて、ヘッジ対象に係る損益とヘッジ手段に係る損益を同一の会計期間に認識し、
ヘッジの効果を会計に反映させるための
特殊な会計処理をいう。

※TX①〔例題10-1〕，

理論TX第17章X.

Q

TAC

国債現物(その他有価証券として保有)の購入と同時に、
債券先物市場で売建取引を同額行った際には
「ヘッジ会計」の対象となる。
その理由を説明してください。

A

ヘッジ対象であるその他有価証券は
評価差額が損益として処理されず
(その他有価証券評価差額金は評価・換算差額等)、
ヘッジ手段である債券先物と損益が
期間的に一致しないため。

※TX①〔例題10-1〕,

理論TX第17章X.

Q

TAC

繰延ヘッジの会計処理を説明してください。

A

繰延ヘッジ…

時価評価されているヘッジ手段に係る損益又は評価差額を、ヘッジ対象に係る損益が認識されるまで純資産の部（繰延ヘッジ損益，評価換算差額等）において繰り延べる方法である。

つまり、ヘッジ対象に係る損益認識時点はそのままに、ヘッジ手段に係る損益認識時点を合わせる方法をいう。

※TX①〔例題10-1〕

Q

TAC

時価ヘッジの会計処理を説明してください。

A

時価ヘッジとは、ヘッジ対象である資産又は負債に係る相場変動等を損益に反映させることにより、その損益とヘッジ手段に係る損益とを同一の会計期間に認識する方法である。

つまり、ヘッジ手段に係る損益認識時点はそのままに、ヘッジ対象に係る損益認識時点を合わせる方法をいう。

※TX①〔例題10-1〕

Q

国債現物（その他有価証券として保有）の購入と同時に、債券先物市場で売建取引を同額行った。当社は繰延ヘッジを適用している。現物価格と先物価格は以下のとおりである。

| | 国債現物価格 | 債券先物価格 |
|----------------|--------|--------|
| ×1年12月1日（売建日） | 105円 | 114円 |
| ×1年12月31日（決算日） | 110円 | 120円 |

この時、×1年度決算日において繰延ヘッジ損益は「借方」または「貸方」どちらに計上されるか答えてください。

A

「借方」に計上される。

※TX①〔例題10-1〕

Q

国債現物（その他有価証券として保有）の購入（1口）と同時に、債券先物市場で1口の売建取引を行った。当社は繰延ヘッジを適用している。現物価格と先物価格は以下のとおりである。

| | 国債現物価格 | 債券先物価格 |
|----------------|--------|--------|
| ×1年12月1日（売建日） | 105円 | 114円 |
| ×1年12月31日（決算日） | 110円 | 120円 |
| ×2年2月25日（決済日） | 96円 | 107円 |

×2年度損益計算書における投資有価証券売却損益の金額を教えてください。なお、損失の場合には△を付すこと。

A

△2円

ヘッジ対象（現物）…△9円（△105円＋96円）

ヘッジ手段（先物）…＋7円（114円－107円）

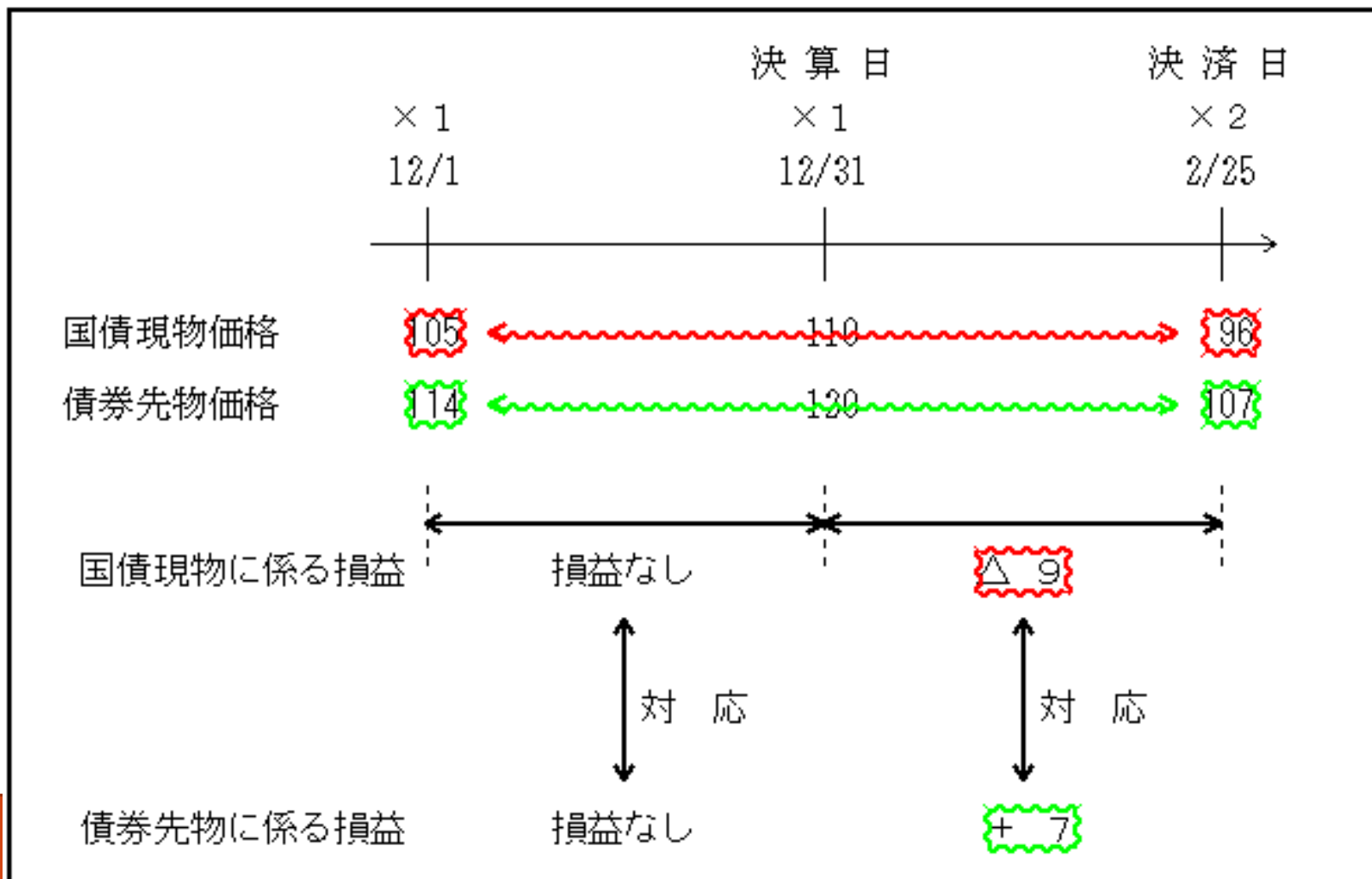
（ヘッジ対象の損益認識時に繰延ヘッジ損益を損益に計上するにあたり、繰延ヘッジにおいては原則としてヘッジ対象の損益区分と同一区分で表示する。） ※TX①〔例題10－1〕

A

【追加解説】

TAC

繰延ヘッジでは、現物（赤）も先物（緑）も購入（売建）日と決済日の差額が損益となる。



Q

TAC

金利スワップについて、
繰延ヘッジを適用した場合の
会計処理を説明してください。

A

TAC

金利スワップの評価差額を
繰延ヘッジ損益とする。

なお、税効果会計の適用に注意すること！

※TX①〔例題10-2〕

Q

TAC

金利スワップについて、
スワップ取引から生じる
正味の債権及び債務(金利スワップ勘定)の
時価の算定方法を説明してください。

A 金利スワップの場合であれば、
将来スワップ取引により
受け取る金利の現在価値合計と
将来スワップ取引により
支払う金利の現在価値合計を比較して
時価評価を行う。

※TX①第9章Ⅲ.5.(3)会計処理(注)

Q

TAC

為替予約について、
独立処理はどのように処理する方法か
説明してください。

外貨建金銭債権債務を決算日レートで換算し、換算差額を当期の損益として処理する。

また、デリバティブ（先物取引）の一種である為替予約（通貨先物取引）を時価評価し、評価差額を当期の損益として処理する。

※ヘッジ対象とヘッジ手段を別々に（独立して）処理する。

※TX①〔例題8-1〕

Q

ドル建て約束手形の振出と同時に、当該約束手形について為替予約を行った場合、この取引はヘッジ取引であるか、またヘッジ会計を適用する必要があるか説明してください。

A

- ・ヘッジ取引である○
約束手形(ヘッジ対象)に為替予約(ヘッジ手段)を行い、
損失の可能性を減殺している。
- ・ヘッジ会計ではない×
ヘッジ対象とヘッジ手段の損益が期間的に
対応しているため。

Memo:ヘッジ「取引」とヘッジ「会計」の違いを確認!

※TX①〔例題8-1〕

Q

TAC

予定取引とはどのような取引か
説明してください。

予定取引とは、未履行の確定契約に係る取引及び契約は成立していないが、取引予定時期、取引予定物件、取引予定量、取引予定価格等の主要な取引条件が合理的に予測可能であり、かつ、それが実行される可能性が極めて高い取引をいう。

※まだヘッジ対象（取引）の発生前に、
為替予約（ヘッジ手段）など行うもの

※TX①〔例題10－3〕，〔例題10－4〕

Q

TAC

将来予定されている輸出取引（掛取引）
について為替予約を行った場合、
売上日及び売掛金の決済日に計上される
損益を説明してください。
なお、繰延ヘッジを適用している。

◎売上日

売上日の直物レートで「売上」を計上する。

先物レートの予約日と予定取引実行日

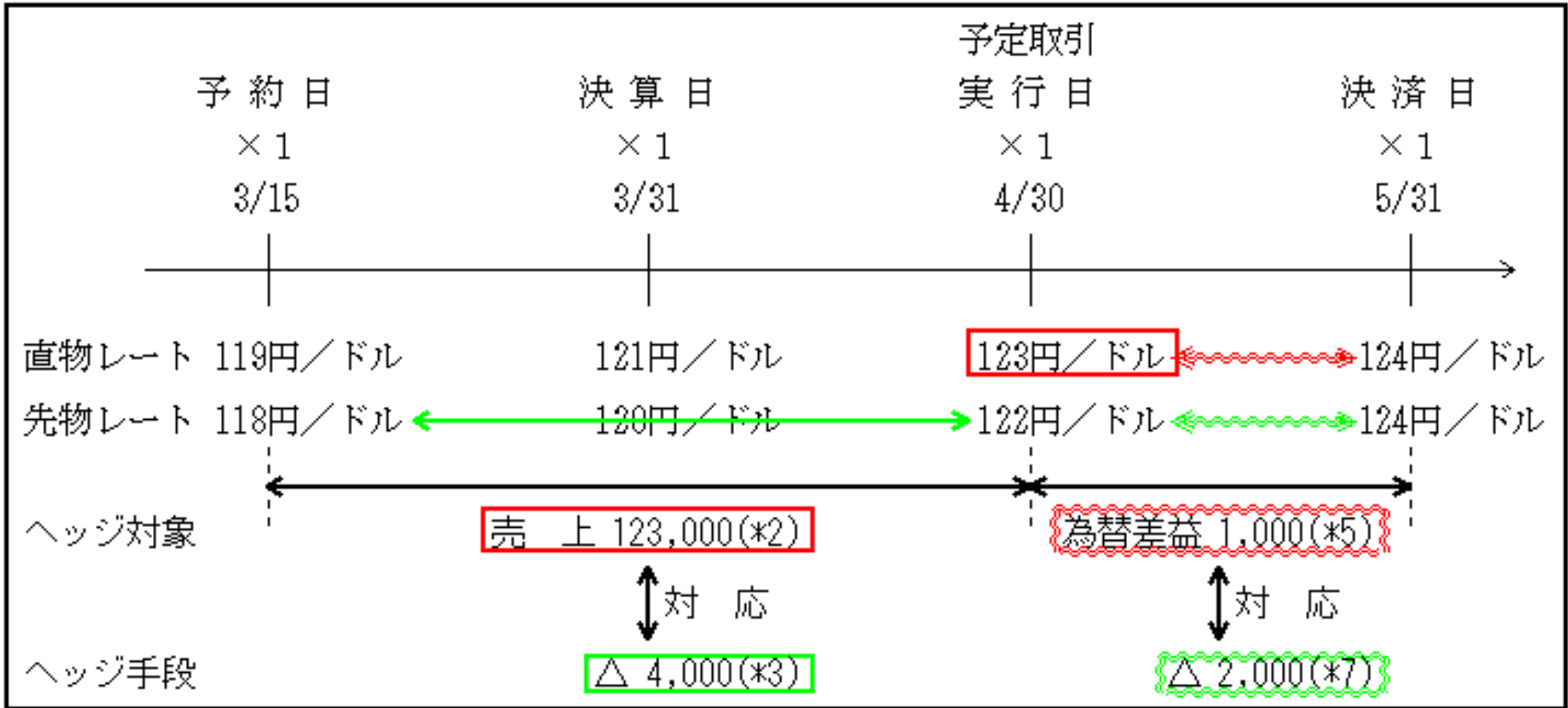
(売上日)の差額を「売上」とする。

◎決済日

直物レートも先物レートも予定取引実行日

(売上日)と決済日の差額を為替差損益とする。

A 【追加解説】 テキスト①例題10-4より



Q 以下の文章における【】内の適切な語句を選択してください。

将来予定されている輸出取引（掛取引）について
為替予約を行ったとき、
予約日における先物レートよりも
売上日における先物レートが上昇していた場合
為替予約を行わなかったときに比べて
売上高は【増加or減少】する。
なお、繰延ヘッジを適用する。

A

TAC

減少する。

輸出取引の場合、為替予約は売予約となる。
売予約の場合、レートが上がると損をする。

※TX①〔例題10-3〕

Q

TAC

輸出取引（予定取引）について、
為替予約を行い、振当処理を適用した場合に、
ヘッジ対象とされる取引の実行前に
決算を迎える場合には、
決算整理の際に繰延ヘッジ損益が計上される。
この理由を説明してください。

A 外貨建取引前に為替予約を行った場合、振当の対象となる外貨建金銭債権債務は存在しないため、為替予約を振り当てることができない。しかし、為替予約をオフバランスにすれば為替予約が財務諸表に反映されないことになってしまうため、決算日に時価評価し、評価差額を繰り延べる。

Memo: 為替予約 (デリバティブ) は必ず時価評価する!

※TX① [例題10-4]

Q

掛による輸出取引（予定取引）について、
為替予約を行い、振当処理を適用した場合、
売掛金の金額がどのような金額となるか
説明してください。

A

予約日の先物レートで換算する。

Memo: 振当処理は予約日の先物レートで
キャッシュ・フローを固定している。

※TX①〔例題10-4〕

Q

TAC

予定取引が資産の取得である場合で
為替予約を行うと、
当該取引の実行時（資産の取得時）に、
先物為替相場の変動を
どのように処理するか説明してください。

A

予約日から予定取引実行日までの
先物為替相場の変動は
資産の取得価額に加減する。

当該資産の費用計上される期

（償却性資産の場合は減価償却など）に
損益に反映することとなる。

※TX①〔例題10-5〕

テキスト①第11章 引当金

Q

下記の①及び②に当てはまる要件を教えてください。

引当金の4要件は

①？

②？

③発生の可能性が高いこと。

④その金額を合理的に見積もることができること。

A

引当金の4要件は

- ① 将来の特定の費用又は損失に対するものであること。
- ② その発生が当期以前の事象に起因していること。
- ③ 発生の可能性が高いこと。
- ④ その金額を合理的に見積もることができること。

※理論T X 第11章II. 2.

Q

賞与引当金について、
P/L における

① 「賞与引当金繰入額」 及び

② 「賞与」 は

どのような金額となるか説明してください。

A

①賞与引当金繰入額

当期発生分かつ次期に支給する金額

②賞与

当期発生分かつ当期に支給する金額

※TX①〔例題11-1〕

テキスト①第12章 社債

Q

償却原価法を採用している社債を償還期限前に償還した場合、計上される社債償還損益の金額を説明してください。なお、下記の2つの言葉を必ず使用してください。

「端数利息、利付相場」

A 期首から償還時までの償却額を計算し、
償還時の償却原価を計算する。
償還時の簿価と買入価額の差額を
社債償還損益とする。
なお、買入価額は裸相場であり、
利付相場から端数利息を控除した金額である。

※TX①〔例題12－3〕、〔例題12－4〕

Q

TAC

端数利息の算定方法を説明してください。

A

TAC

直近の利払日の翌日から償還日までの利息（クーポン利息分）

※TX①〔例題12-3〕

Q

償却原価法（定額法）を採用している社債（前期発行）の一部を償還期限前に償還した場合、計上される社債利息の金額を説明してください。

A

償還分・・・

期首から償還日までの償却額及びクーポン利息

未償還分・・・

期首から期末までの償却額及びクーポン利息

※TX①〔例題12-3〕

Q

TAC

抽選償還は
どのように償還を行う方法が
説明してください。

A

TAC

一定期間ごとに
「分割して」償還を行う方法。

Q

抽選償還の利息法、定額法について
どのように会計処理を行うのか
説明してください。

A 利息法…償却額の計上後、
元本償還分を引いた後の金額を
期末の帳簿価額とする

※TX①〔例題12-5〕

定額法…償還時期の異なるものごとに
償却額を計算する。

※TX①〔例題12-6〕